

# 営農技術情報

発行 令和8年4月24日

第3号

たいせつ農業協同組合

営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

支所 営農センター 87-4111

◆4月25日は気温が0℃を下回るとの予報が出されています。2重被覆やハウスを早めに閉めるなど低温被害の防止策を取りましょう。また、日中に日照が続くと急激にハウス内の気温が上がりヤケ等の被害の可能性が高まります。こまめに温度管理・灌水管理を行い、健苗育成に努めましょう。（「営農技術情報 第2号」と合わせてご確認ください。）

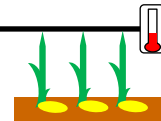
日	25 (土)	26 (日)	27 (月)	28 (火)	29 (水)	30 (木)	1 (金)	2 (土)	3 (日)	4 (月)	5 (火)
天気											
最高	13℃	20℃	21℃	16℃	7℃	14℃	16℃	19℃	19℃	16℃	18℃
最低	-1℃	3℃	6℃	6℃	3℃	2℃	4℃	3℃	8℃	9℃	6℃

## ＜1.5葉期～移植までの管理ポイント＞

育苗期間	1.5葉期～3.0葉期	3.0葉期～移植
適温	20～25℃	18～20℃
換気温度	20℃以上 晴天時には外気に慣らす	
温度測定	葉先近く	
灌水のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝、葉先に水滴がなくなったとき</li> <li>・日中、葉身の展開が悪くなったとき</li> </ul>	

## Check

- 温度計は生育状況に合わせて下図のように設置しているか。
- 過度の灌水は立枯病や各種病害が発生しやすくなりますので、1回の灌水量は500～100ml/箱を目安に実施しているか。



## 高温時代の稲作ワンポイント

育苗後半(2.5葉期以降)に高温(25℃以上)に遭遇すると分けつが進み早期異常出穂の原因になるため、換気などを行い過度な高温にならないように温度管理には十分に注意しましょう。

※最も暑くなる時間帯(12時～14時頃)に灌水を行い、ハウス内の温度を下げるのも効果的です。



写真 早期異常出穂

## ★育苗期間の病害と対策

病原菌の種類	病状と特徴、見分け方	耕種的な防除対策
赤カビ (フザリウム菌)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・籾を中心に白～淡紅色のカビ発生</li> <li>・地際部、根が枯死し、生育不良</li> <li>・萎凋、枯死し籾や根が紅色になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過湿状態を避ける</li> <li>・夜間保温に努める(10℃以下で赤カビ、ムレ苗の発生が多くなる)</li> </ul>
ムレ苗 (ピシウム菌)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急激に葉が巻き針状に萎凋、枯死</li> <li>・発生は鉢ノット状、根は見られない</li> <li>・地際部は水浸状褐変腐敗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温管理を避け徒長させない</li> <li>・発根促進に努める</li> </ul>
白カビ (リゾプス菌)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床土表土、籾層に白色のカビ発生</li> <li>・蔓延すると発芽、発育不良となり根は短く、根数も少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽度の白カビは、土壤の乾燥で蔓延を防止する。</li> <li>・適正播種量を守る。</li> <li>・翌年に向けては、土壤を適正なpHへ調整し、排水対策を講じる。</li> </ul>

病害名	防除時期	処理方法	薬剤名	希釈倍率	使用量	使用回数
苗立枯病 フザリウム菌 ピシウム菌	播種時又は 発芽後	土壌灌注	タチガレエースM液剤	500～1000倍	ポット 300ml/箱 マット 500ml/箱	1

※タチガレエースM液剤は使用濃度、使用量が多いと一時生育抑制を起こします。